

ぎふグローバル ニュース「Co-Work」42 号 H28/3/1

フィリピン レイテ島 レイテ高校視察

2 月 11 日から 14 日までフィリピンのレイテ島にある国立レイテ高校への視察。無事、生徒（1 年生 9 名、2 年生 18 名）と教員 3 名で終えて帰ってきました。

- 1 日 程 平成 28 年 2 月 11 日（木）～14 日（日） 3 泊 4 日
- 2 引 率 教員 3 名 石田勝義教頭 宮川純一 河邊友美
- 3 参加生徒 2 年生 18 人(女子 12 人、男子 6 人)、1 年生 9 人(女子 7 人、男子 2 人) 計 27 人（女子 19 人、男子 8 人）

※今回の旅行記 PART 1 を 3 ページに記載しています。

NPO アイキャンからお礼状が届きました。

聖徳祭の時に皆さんにお願いして不要になった本などを持ってきてもらいました。それをまとめて去年講演に来ていただいた NPO アイキャンへ寄付させてもらいました。段ボール 3 箱の古本が 3600 円ほどになったそうです。ご協力ありがとうございました。

※アイキャンはフィリピンで災害支援活動を行っている NPO 団体です。

速水様

ご無沙汰しております。アイキャンの中村です。
この度は、古本のご寄付を頂きまして誠にありがとうございました。お礼をお伝えするのが遅くなり、
しまい申し訳ございません。ブックオフの査定を
経て、皆様からのご寄付は約 3,600 円となりました
ことをご報告致します。以前講演をさせていた
だいた後、今回このように寄付をしてくださった
こと、大変嬉しく思っております。他の先生方、生徒
さんにも、どうぞようにお伝えください。簡単では
ございますが、お礼状を同封致します。

今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。

アイキャン
中村由美子

Thanks Letter from ICAN



岐阜聖徳学園高校の皆様

この度は、古本等のご寄付を頂きまして誠にありがとうございます。皆様からの古本は、ブックオフを通じて募金に生まれ変わり、アイキャンがフィリピンで実施している事業のうち最も必要とされている活動に充てさせていただきます。フィリピンの子どもたちの生活が少しでも良くなるよう、大切に活用してまいりますので、今後も応援していただければ幸いです。

どうぞよろしくお願いいたします。

アイキャン・フィリピン

デイビットくん(仮名)は、小さい時から家族を支えるために働いていました。

そんなデイビット君がアイキャンの奨学金で小学校に通えるようになったのは彼が青年になってからでした。

19歳で小学5年生の彼にとって、小さい子に交じって勉強するのは、とても恥ずかしことでした。しかし、『教育を受けてきちんとして仕事についたら、両親に楽な生活を送らせてあげられる』彼はそう信じて、学校に通い続けました。

無事に卒業を迎えられた彼は、現在は手に職をつけ、安定した生活が送れるようにとパン職人になる訓練に励んでいます。



アイキャンは、フィリピンを訪れた会社員が子どもたちの置かれた現状を前にして、「何かできることがあるはず」と思い、友人と集めた5万円で1994年に設立されました。アイキャンという名称には「一人ひとりのできること」を持ち寄って活動を進めるという意味が込められています。

あなたのご寄付 (ICAN) が
子どもたちの笑顔をつくる大きな力に
なっています。

Not "for" the People, but "with" the People
～人々の「ために」ではなく、人々と「ともに」～

認定 NPO 法人アイキャン 日本事務局
〒460-0011 愛知県名古屋市中区大須 3-5-4
矢場町パークビル 9 階
Tel/Fax 052-253-7299
(火曜～土曜：12～19 時)
E-mail info@ican.or.jp
Website <http://www.ican.or.jp/>
Facebook <https://www.facebook.com/ICAN.NGO>

平成27年度ぎふグローバル人材育成推進モデル事業実施 状況

2016年2月11日（木）～14日（日） フィリピン レイテ高校訪問

月 日	曜 日	時間	内容	場所
2 月 11 日	木		1 日程 平成28年2月11日（木）～14日（日） 3泊4日 2 引率 教員3名 石田勝義教頭 宮川純一 河邊友美 3 参加生徒 2年生18人(女子12人、男子6人)、1年生9人(女子7人、男子2人) 計27人(女子19人、男子8人)  タクロバンの空港で Dean と生徒らがバナーを持って待ち構えてくれていました。歌も歌ったりして、大変な歓待ぶりに感動。	名古屋からマニラ経由でタクロバンへ
12 日	金	7:10	朝、レストランに食事に行くと、A班（DIG）C班（HUG）のチームがテーブルに地図や、避難所の紙を出してリハーサルをしていた。最後のスピーチの調整に、余念がない。頑張っている。	レイテ高校
		8:30	レイテ高校へ行くと、門のところに昨夜のバナーが飾ってある。バスから降りて Dean 先生らが出迎えてくれる。 入り口から校長室までの200mほどに、フィリピンと日本の小旗を持った生徒たち 7th grade(12～13歳)だそうだが、きれいに3m間隔で並んで旗を振ってくれた。朝でもすでに日差しが強く、日向側の生徒は数十分もたちっぱなし、旗をふりっぱなしで、汗だくであろう。7人ほどのこじんまりした、大太鼓とグロッケンバンドが何か聞いたことのない曲をー 	

月 日	曜 日	時間	内容	場 所
			生懸命演奏してくれ出迎えてくれた。  Dr.Jane、Codilan 校長先生の部屋へ。狭い部屋に全員（29 人）が入って写真を撮る。あまり話すこともなく、お土産の坂角のゆかりを渡し、ひとまず挨拶と写真だけで部屋を出る。 外に出てセレモニーの時間まで、生徒らは作っていた名刺を渡したり、自己紹介をふまえた交流。ガ イドのバージさんや岡村さんは生徒に英語でコミュニケーションをとるように、促してくれた。森嶋君がさっそく人気で、自ら話しかけに行き、10 人以上の生徒を引き付けていた。ほとんどの生徒が、自ら話しかけ、写真を取り合ったりして、対話を楽しんでいた。 校長先生と、建物の建て替え工事に入っていることや、図書館が 100 年以上の建物で古いことなど、いろいろ話してくださった。前に昼食をいただいたキャンティーンは潰されて 3 階建ての教室に作り替わるそう。高 1 にあたる学年で終了していた高校を、あと 2 年増やして日本やアメリカのスタイルに変更することが決まったそう。急ピッチで 2 学年分の建物を増やすそう。6,000 人の学校が 10,000 人になるそう。 	

月 日	曜 日	時間	内容	場 所
		9:00	昨年とは違うオープンスペースに通される。大きなステージがありその奥の巨大な壁面に、巨大なフィリピンと日本の旗と、それぞれを象徴する桜の木、Nara の木の絵、その下に日本人、フィリピン人が微笑みあっている手作りの貼り絵があった。飾りつけをしたテーブルに座り、その周囲を約 300 人程の生徒たちが取り囲んでいる。 歓迎セレモニーは、威勢のいい女性のアナウンスで始まった。校長のお話し、次から次とダンスの演目。フィリピンの歴史や、いかに歓待しているかを示す 30 人ほどの見事なスタンツ、油断すると涙ぐみそうな優しいメロディーの男女混成の合唱。民族舞踊から、国で優勝したという鳥をテーマにしたパフォーマンス スダンス、民族衣装の今昔を紹介するファッションショー、それに重鎮の長めのスピーチが披露された。 最後のあたりに、日本からのスピーチで、最	



スダンス、民族衣装の今昔を紹介するファッションショー、それに重鎮の長めのスピーチが披



月 日	曜 日	時間	内容	場 所
			初に石田教頭が、予定外にもスピーチをしてくださった。前夜にスピーチをやったほうがよ からうと、ガイドさんと打ち合わせてくださ っていた。私のいつものあまり内容のないス ピーチ、そして、生徒らに突如頼んだ校歌、 それにもまして平田さんの独唱。アーティス ト名と、曲名を言うと、その日一番の歓声が 上がり、歌と同時に、歓声と手拍子が始まり、 一番盛り上がった瞬間となった。平田さんは、 その日、ミュージシャン顔負けの「Thank you, so much.」をオーディエンスに投げか け、さらなるアプローズを得ていた。それにしても、平田さんを中心とした、生徒らの歌と 度胸に救われた形となった。 校長から記念品が渡され、こちらからも、坂角のゆかりを2つ渡した。	   

月 日	曜 日	時間	内容	場 所
		10:40	4つの教室に分かれて、いよいよ準備してきたシミュレーションゲームの実施と、1年生は戦争についての意見交換の場となった。 A班はDIG(災害図上訓練ゲーム)を実施。B班は防災カルタ、C班はHUG(避難所運営ゲーム)、そして1年生は「戦争」をテーマに教室で授業、という配置。 A班のDIGは、レイテ高校近隣のマップ上で、足の不自由な老人、あるいは車いすの人をどう避難所へ連れて行くか、助けてくれる人たちはいるか、どのルートが最も安全か、などを話し合いながらシミュレーションするゲームだ。レイテ高校の生徒は、大変協力的に、熱心に議論して、ゲームに関わってくれた。 B班のかかるたも、よく伝わったようで、ゲームはスムーズに進行したし、ルールを理解したレイテの生徒は、大変な盛り上がりを見せた。 C班は、2テーブルに別れHUGの説明を行った。避難所に、どう避難民を配置しその後の避難所生活を円滑なものにしていくかのシミュレーションだ。複雑な内容をレイテの生徒たちに細かく理解してもらえていて、2テーブルは競争し合って、ゲームが進行したようだ。 どの班も事後アンケートを取り、実施内容がどの程度防災、減災に影響するか確認していた。 A班にいたレイテの生徒は、終わると平田さんに歌をせがんでいて彼女はリクエストに答え、また大きな喝采を得ていた。 B班は、時間が早く終わり、先ほどのセレモニーの場所で、レイテサイドから、鬼ごっこのようなゲームを教えてもらって、楽しんでいた。 C班は、輪になって、小さな石ころを	



月 日	曜 日	時間	内容	場 所
			順番に隠して回して、真ん中の鬼に石がどこにあるか当てさせるゲームをフィリピンの女子生徒の発案で楽しんでいた。 1年生は、社会の Noel 先生とガイドのバージさんにお任せして、歴史の講義が中心となったが、開始時には、1年生が集まってくれた20人ほどの生徒に、用意してきたアンケートを実施してもらい、戦争観や日本人に対する意識調査などを行った。 講義は、やがて Noel 先生のいつもの講義になり、レイテの子らはもちろん理解しているが、日   本人の生徒らには少し難解なものとなったと思われる。Noel 先生も英語の時間ほどではないが、質問を常にして、生徒の意見を聞き出す方法で、生徒を巻き込んで実施される授業であった。	
		12:00	ランチ 人のいいいかりや長介に似た先生がやってきて皆と一緒に食べた。親が来て、娘の別れたボーフレンドに意地悪されていると怒っていてその対応で午前中は来られなかったと言っていた。その手の問題は、どこでもあるのだなと思った。 Aldim Roda 先生が話に came。女子生徒がアメリカに1年留学する。帰ってきてからテストをして、合格だと進級、不合格だと留年して1年の遅れを取り戻すそう。日本との exchange も実施する可能性も模索できそう。石田教頭も、また学校で協議して、実現できれば考えたい。教務とのすりあわせだねと、おっしゃった。石田教頭とは、これだけの歓待なので、こちらもお返しをしないといけない。土曜日の登校日を使って、計画してはどうかとの話も上がった。土、日、金の流れで受け入れを考えてもよいと思われる。	
		13:00	1時から、observation class で、生徒たちが5班に分かれて、授業に入った。数か所を短時間で回るより、じっくり1時間を体験したほうが、生徒らとの交流もできるし生徒も記憶に残るだろうと考えた。私は河邊先生と、英語のクラスに入った。Burnie 先生の英 	

月 日	曜 日	時間	内容	場 所
			語の授業は、いわゆるアクティブ・ラーニングのスタイルだ。とにかく、先生は、質問しかないくらいだ。 ・今朝はご飯を食べた？ ・今朝は何を食べた？ 数人質問に答える ・インスタント食品のパッケージの作り方のところに何が書いてある？ 班でそれぞれをプレゼン Imperative verb 命令文で始まっていることを確認 ・サンドイッチはどう作る？ ・自分たちの班でどんな独特なサンドイッチを作る？ 各班でプレゼン 等、とにかく質問の形式で投げかけ、それに生徒は答えるスタイルで、考えさせ output させるばかりの授業となる。先生は、全くのファシリテーター。 フィリピンの生徒はとにかく全員がまともに対応していて、反応がよく、声がよく出る。 驚いたのは、班に一人ずつ入った日本人を上手にエスコートし、日本人の言いやすいように内容を引き出し、そして発表でも中央に立てて、そしてやり終えると最大限に褒める。 こうした、博愛的な姿勢が全員に感じられる。今日だけ特別なわけではなく、いつでもそういう体制で物事が進んでいるようだ。特に授業中、楽しく積極的にそして、みんなで学んでいこうという姿勢があり、それが、それぞれが声を出しやすい雰囲気を作っている。 渡辺啓介君は、授業中は比較的静かな方だが、最大限の注目を与えられ、一番の中心と考えられ、彼が立ちいくように配慮されて、そして彼は、班の中心として前に立ち、発表をすることになった。彼は、大きな声で、英語で、その内容を堂々と発表したのだ。そして最大級の拍手と賛美を得て、彼は自信を持ったようで、授業後、彼は「今日は結構喋れた」と言っていた。	  